



よりよい道を求めて

校長 藤原 明美

文字通り「三寒四温」の二月でした。急に寒くなって雪が降り、日が差すと汗ばむ陽気になります。暖かな日差しに誘われて、硬い地面の土を割って、チューリップの芽が元気に出てきました。木々のつぼみも大きく膨らみ、季節はようやく春を迎えようとしています。

思い起こせば、令和2年2月、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国の学校が臨時休校になり、そこから学校生活の様子が大きく変わりました。これまで学校教育で当たり前だったことに制限がかかり、授業も校外学習も学校行事等の教育活動全般の変更を余儀なくされました。市のガイドラインと本校の児童数や学校規模・施設設備に照らし合わせながら、常に「何を大切にするか」を考え、思考と選択の連続でした。未知の状況に適応し、工夫しながら、道を切り拓いていく学校運営でした。

また、令和2年度は、奇しくも、現在の学習指導要領が始まった年でもありました。感染症対策という外圧の中で、計画していたカリキュラムや教育活動を抜本的に変更することに戸惑いながらも、それが契機となって見直しが進みました。職員で話し合いを重ね、工夫して取り組んでいく中で、「これからの未知の時代を生きる子どもたちに育てたい資質・能力」「学校教育が担う役割」「学校でしか培えない体験は何か」が見えてきました。

これからは、単にコロナ禍以前に戻すのではなく、現在の学習指導要領を拠り所として、よりよい教育活動を見付けながら、ハイブリッドで進めていくこととなります。

学力観も確実に変わってきています。「何を知っているか」ととどまらず、知識を活用して考え、対話しながら新しいものを創りあげていく資質・能力の向上をめざして、授業における学習計画やウエイトのかけ方を変えてきました。学習活動の中に意図的に、子どもが思考・判断・表現する場面を設定しています。同時に、子ども自身が主体的に学習に取り組み、自ら考え表現し、友達と交流して高め合うツールとして、タブレットや校内放送等のICT機器を有効に活用する資質・能力が飛躍的に育ちました。

運動会においても子どもが考える場面を多くしています。「そろえること」と「自分らしい表現」は一見相反することのように感じますが、これからの教育には、協調性と独創性の融合が求められています。そろっている場面があるからこそ自分らしさが際立ちます。表現とは「創るもの」であることに重きを置いて支援しています。

また、コロナ禍では、人との関わりと直接体験の大切さを改めて実感しました。リモートの利便性を享受しながらも、直接、人とつながり、互いを高め合いながら一緒に創造していく力はとても大切です。そして、人と関わり、創りあげていく力は、正に学校という空間で培われていくものと考えます。これらの教育活動の場を、より充実させ、設定していきます。

「コロナ禍」という一つの時代は、社会に様々な影響を残しました。他方、制限のかかる社会状況下で、学校教育で大切にしたいことがより鮮明になったとも言えます。職員とともに、これからのよりよい教育活動を考えてまいります。社会が落ち着き、子どもたちが安心して楽しい有意義な学校生活を送ることができるよう、願って止みません。

最後になりますが、今年度も本校の教育活動に温かいご支援とご協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしく願いいたします。



4月

ある中学生のお話です。

桜吹雪の似合う、きれいな水の
入学式にも、挨拶のお話をしました。
幸せな挨拶の思い出なのです。
私が卒業しても、あの道が挨拶の小道

雪に慣れている地域でも、この冬は心配になる程の記録的な積雪でした。気候の変化も、感染症拡大の社会状況も、世界の動きも、心配なニュースが続いています。常日頃から、人の心の痛みを想像して寄り添い、異なる考えにも耳を傾け、相手を思いやり、互いに対話しながら、よりよい明日を、寛容な社会を、築いていけたらと願う日々です。